

FISITA2012 World Automotive Congress

出張報告書

作成日：2013/01/05

文責：同志社大学大学院

工学研究科 機械工学専攻

構造工学研究室 M2 川上 弘敏

学会名：FISITA2012 World Automotive Congress

主催：FISITA, SAE CHINA

開催期間：Nov 27-30, 2012

開催場所：China National Convention Center, Beijing, China

研究題目と発表者：Power Transmission Properties of Dry Hybrid V-belt with Protuberant Tension Member on Contact Surfaces of Blocks
—It's Effect with Respect to Speed Ratio—

Hirotohi Kawakami, Kazuya Okubo, Toru Fujii, Hiroyuki Sakanaka and Ryuichi Kido

同道者：なし

発表形式：Oral (20minutes)

1. はじめに

私はこの度、2012.11.26～11.29 に中国の北京で開催された FISITA2012 Student Congress に自動車技術会の学生会員として参加いたしましたので、その内容について報告させていただきます。

2. FISITA2012

FISITA2012 World Automotive Congress は、中国・北京の北部に位置するオリンピック公園内にあるChina National Convention Center を会場として、4日間に渡り開催されました(Fig1)。私が参加した Student Congress は一般セッションと並行して開催され、世界各国から集まった学生によって、エンジン、トランスミッション、EV、安全システムなど様々な研究内容について発表が行われました。日本からは私と東京農工大学の酒井裕一氏の計2名が Student Congress に参加いたしました(Fig.2)。

3. 参加スケジュール

今回のFISITA2012は下記のスケジュールで行われました。

11月26日 Welcome Reception

11月27日 Opening Video & Welcome Addresses

Student Congress Session 1

Student Congress Session 2 (口頭発表)

11月28日 Student Congress Session 3

11月29日 Student Congress Session 4

Closing Ceremony

4. Student Congress Session での発表の感想

私は11月27日の15:35からのセッションで、Power Transmission Properties of Dry Hybrid V-belt with Protuberant Tension Member

on Contact Surfaces of Blocks—It's Effect with Respect to Speed Ratio—について研究発表を行いました。今回が初めての英語発表であったため、出発前に何度も発表練習を重ね、往路の飛行機内や前日のホテル、そして発表直前まで何度も練習しましたが、発表が初日27日の最後のセッションでの発表ということもあり、他の学生の発表を聴講している間に緊張が高まり、発表前に緊張はピークに達していました。しかし、発表を進めるにつれて緊張も薄れ、スライドのタイミングやレーザーポインタで指すポイントなどに注意しながら発表することができたと思います。反省点を挙げれば、聴衆の反応を見る余裕をもって発表できれば更に良かったと思います。また、質疑応答では、質問者の方の意図は解りましたが、返答する際に咄嗟に英語で答えることができず、少し時間がかかり、文法も適切ではありませんでした。自分の専門分野の語彙力はもちろん、英語の基礎学力を更に鍛える必要があると改めて実感しました。

5. セッション聴講の感想

Student Congress Sessionを聴講する中で感じたことは、EV・H



Fig.1 FISITA2012会場 (China National Convention Center)



Fig.2 日本からの参加学生(左から酒井氏, 川上)

EVなどの環境対策に関する研究や自動車の安全システムに関する研究の発表が多いという点でした(Fig.3)。また、一般セッションでも環境対策に関する研究発表での聴講者が多く、自動車業界全体の環境に対する関心の高さを改めて感じました。また、各セッション間の休憩時間に行われていたポスターセッションでも、環境対策と安全システムに関する研究発表が多く、先進国・新興国に関わらず、今後自動車の環境対策・安全システムの開発が益々重要になると感じました(Fig.4)。

6. 北京市内について

今回のFISITA2012会場は2008年に開催された北京オリンピックのメイン会場に隣接されていたこともあり、会場周辺にはオリンピック開催に伴い建設された北京国家体育場(鳥の巣)、北京国家水泳センター(ウォーターキューブ)やホテルなど、真新しい建造物が多く見受けられました(Fig.5)。一方、北京市中心街には、伝統的な建造物が多く、世界遺産にも認定されている故宮をはじめ、中国の歴史文化を感じることができました。また、北京市内の自動車の交通量は日本と比べ物にならないほど多く、歩道に路上駐車することや何十キロもの渋滞が毎日発生するなど、日本と異なる中国の交通事情にとっても驚きました(Fig.6)。今後、今回のFISITA2012でも多数発表された自動車の環境対策と安全システムの技術が、中国を含む新興国で、益々重要になるであろうと感じました。

7. おわりに

今回FISITA2012 Student Congress に参加し、英語原稿の作成や英語での研究発表等、私にとって初めての経験ばかりでしたが、大変有益な経験を得ることができました。また、他国の同世代の学生や技術者の研究発表を聴講し、今後の自動車技術の展望と世界基準の研究活動を肌で感じる事ができました。しかしながら、今回の学会発表を通して、私の英語の発音、ヒアリング能力が低いことが改めてわかりました。そこで、これからは研究だけでなく、英語の勉強にも力を注いでいきたいと思います。

8. 謝辞

FISITA2012 Student Congressに参加するにあたり、ご支援いただいた自動車技術会の深見様、湯川様、FISITA Student

Congress運営委員の皆様、現地でお世話になりました東京農工大学の永井先生、ポンサートン先生、酒井様、東京大学の須田先生、清華大学の李先生、その他お世話になった方々に御礼を申し上げます。また、学生・キッズ向け事業支援金より参加援助をいただいたことに感謝申し上げます。

最後に共同研究としてご支援いただきましたバンドー化学株式会社の坂中様、城戸様、ご指導をいただいた本学同志社大学の藤井先生、大窪先生、にこの場をお借りして御礼申し上げます。



Fig.3 Student Congress Sessionの様子



Fig.4 展示されたポスターの様子

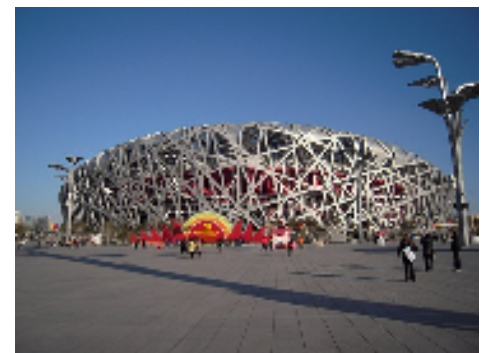


Fig.5北京国家体育場(鳥の巣)



Fig.6 中国市内の街並みと自動車